



き

輝なんせ鳥取

2009. 3
第12号



鳥取市消防団に「女性分団」が創設

男女が共に支え合う災害に強い社会を目指して！(関連記事2ページ)

目次

- 鳥取市消防団「女性分団」 2
- 編集委員の「輝なんせ鳥取」
講座受講つれづれ記 2
- 平成21年度
「輝なんせ鳥取」啓発講座 3
- 訪問取材 “おじゃましま～ず”
「(株)大地企画」 4
- インタビュー女と男
用瀬地区公民館長 田中 満智子さん 5
- クローズアップ
とっとりCAP 6

男女が共に支え合う災害に強い社会を目指して！

鳥取市消防団に「女性分団」が創設されました



創設の目的

消防団に課された使命が、消火活動・自然災害対策・有事の際の国民保護…と多様化し、地域防災の中核的な存在として、活躍が期待されています。

この多様化する使命に消防団が対応するためには、女性の視点を活かし、女性も男性も協力し合って活動していくことが必要となっています。

これらの背景から、鳥取市消防団の機能強化を目的に創設されました。

創設による効果

- 地震などの大規模災害時の対応能力の向上
 - ・避難所における避難者の心や体へのケア
 - ・避難所運営や復興への女性参画
- 予防広報機能の充実
 - ・火災予防運動
 - ・住民等への救命講習
- 消防団のイメージアップ
- 男女共同参画の推進などが、期待されます。

目指す姿

「防災防火は男の仕事」という性別による固定的役割概念にとらわれず、男女が共に支え合う災害に強い社会を目指しています。

団員の「西村さん(代表)」・「村上さん」にコメントをいただきました。



代表 西村 登志子

地区の“女性の会”役員をしていて、いざ災害になったとき近くにいるのは女性なので「何か出来ることは」と思い、入団しました。

消防団員になり、色々な行事に参加し、研修会もして、あっという間の半年間でしたが、知らないことがとても多く、たくさん大切なことを勉強してきました。

これからは、女性にしか出来ないことを勉強して、多くの人に伝えていけたらと思っています。



団員 村上 千晶

私の入団のきっかけは、「自分にできることがあれば」と思ったことです。

入団前まで私は、消防＝男性というイメージがあったので、不安でした。しかし、広報・予防活動等様々な活動をする中で、女性でもできることが多くあることを知りました。

確かに力に及ばない面もあるかもしれませんが、予防活動、災害時の女性への対応等、女性だからできることもたくさんあります。

これからも地域のために男女共に協力し活動していきたいと思っています。



幼稚園での防火教室



駅での防火広報

編集委員の輝なんせ鳥取 講座受講つれづれ記

- *講座名 いきいき女性塾
「自信につながる好感度アップ術」
- *講師 (株)エアー・インターナショナル 西日本地区マネージャー
元国際線客室乗務員 織田 由佳子さん
- *日時 平成21年3月5日(木曜日) 午後1時30分～午後3時30分

壁を使って
美しい姿勢の体験



二人一組になって
ロールプレイ



織田さんは、講演の中で自信をつける好感度をアップさせるためには、「外見の印象と表現の印象の2つが共に良い人ほど好感度が高くなります。」とお話しされました。

外見を良くするためには、①表情 ②姿勢 ③身だしなみを意識すること、表現印象を良くするためには、①相手を思いやる言葉を選ぶ ②聞き上手になるとのことでした。



この2つの中には、まだまだ深い意味があり私達の日々の生活の中で経験を重ねていく事が大切だと思います。

講座では、二人一組になってロールプレイ、全員が壁を使って美しい姿勢のとり方などを体験しました。

最後に質問タイムもあり、織田さんが相手を受け止めながら答えていらっしやる姿が参考になりました。



「輝なんせ鳥取」^き 啓発講座 (予定)

「輝なんせ鳥取」では、男女共同参画に関する啓発講座を開催しています。平成21年度は以下のとおり開催する予定ですので、多くの方のご参加をお待ちしています。

詳細は、「市報」や「ホームページ」で案内します。

講座名	開催回数	開催時期 (予定)	講座の内容と目的
再就職に役立つ スキルアップセミナー	4回連続×1講座	5月	再就職に関するノウハウを学び、女性の就業を支援します。
再就職に役立つ パソコンセミナー	3回連続×2講座 ①初級コース ②中級コース	6月	女性のパソコン技術の習得を支援し、女性の就労、社会参画を支援します。
わくわく男性塾	2回	8月～9月	家庭の中での男女共同参画や仕事と家庭との両立を促進するとともに、男性の生き方の再発見を支援します。
男女共同参画 基礎セミナー	2回	9月	公民館など地域で男女が共に協力して男女共同参画のまちづくりをする体制づくりとワーク・ライフ・バランス意識の普及促進を図ります。
見て、聞いて学ぶ、 楽しい子育て講座	1回	10月	子育て中の母親に対し、子育てに関する具体的な知識の提供を行い、子どもたちが健やかに生まれ育つための環境づくりの推進を図ります。
いきいき女性塾	4回	1月	女性が社会で活躍する実践的な学習と社会で活躍する女性の生き方と心と身体の悩みを解決し法律の知識を学び、いきいきと生活できるための支援を行います。
できる！男の料理教室	4回	未定	男性が料理技術を習得して家事参加を促進し、家庭の中の男女共同参画や、仕事と家庭の両立を促進します。
DV・児童虐待って どんなことなの？	2回	未定	DV、児童虐待について理解を深め、暴力は人権侵害であり、犯罪でもあることの啓発を行います。
女性のためのパワー アップセミナー	4回連続×1講座	未定	自分自身の日々の生活を見つめ直し新たな能力の発見・開発を支援します。

訪問取材 “おじゃましま〜す”

今回は“株式会社 大地企画”を訪問しました

(株)大地企画は、平成19年度「鳥取市次世代育成優秀企業」として優良賞を受賞されると共に、「鳥取県男女共同参画推進企業」に認定されるなど、次世代育成や男女共同参画に積極的に取り組んでおられます。

今回は、西村 ^{かおる} 薫さん（代表取締役）にインタビューしました。

どんな子育て支援をしていますか？

毎週水曜日を“ノー残業デー”にしています。また、子どもの学校行事等に参加しやすいよう“半日有給休暇制度”を設けています。

さらに、子どもの“看護休暇”、父親に対する“出産時特別休暇（出産前後30日間を通じ2日間）”、閑散期を利用して土日を含む3日以上“有給休暇の連続取得”の推進、“育児休業制度”、“時間外労働の制限”、“育児短時間勤務”等を設けて、子育てしやすい環境づくりをしています。

男性社員の育児休暇・介護休暇の取得状況は？

現在対象者（育児中、介護中の社員）がいないため、近年の実績ありませんが、対象者が出たときは、制度の利用を推進していきたいと思っています。

女性も、男性も働きやすい職場づくりの取り組みは？

職場全体で、子育て支援等の各種制度を利用しやすい雰囲気づくりに努め、仕事の面では業

務の分担の見直しなどを行っています。

また、効率よく業務が出来るよう普段から専門知識の習得サポート（積極的な講習会参加の奨励など）を行っています。

更に、意見の出しやすい雰囲気づくりとプレゼンテーション能力の向上を目的に、毎週月曜日3分間ミーティングを実施しています。

お茶だし、ゴミ捨てなどの男女役割分担意識の是正と禁煙の分煙化も図っています。



西村 薫さん（代表取締役）

セクハラについては、防止対策を就業規則に規定しており、防止に関する方針を従業員に周知し、苦情相談体制（啓発チラシの掲示など）も整備しています。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）の推進への

取り組みについて

前述しましたが、“ノー残業デー”“完全週休二日制”などにより家庭生活への時間的ゆとりを取れるように努めています。

また、ゆとりの時間を使って地域の子育て活動（スポーツ、文化活動等）への積極的参加を推奨しています。

女性社員の登用は？

技術職の女性係長がいます（3名の女性社員のうち、事務職1名・技術職2名）。

仕事への情熱や技術があれば、昇任・採用に際して、男女の区別はありません。



株式会社 大地企画

所在地：鳥取市千代水1丁目70-2

業種：建設コンサルタント

職員数：20名（女性3・男性17）

【2009年2月現在】

「鳥取市次世代育成優秀企業」の優良賞になられて今後の抱負は？

社員がワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）を図れるよう、職場をあげて取り組み、安心して出産や育児に携われる環境づくりと、社会全体において子どもたちが健やかに生まれ、育つ環境づくりに貢献していきたいと思っています。



インタビューの様子

インタビューをして（by編集員）

インタビューを通じて、西村さんの飾らない誠実な人柄と社員への思いやり（愛情）を感じました。

次世代育成優秀企業

鳥取市では、企業における子育てしやすい環境づくりの促進を目的として、子育て支援に積極的に取り組まれている企業を次世代育成優秀企業として表彰してきました。（表彰事業は19年度で終了し、20年度より「次世代育成優秀企業認定事業」がスタートしました）

今までに、やまこう建設(株)・(株)鳥取銀行・鳥取県生活協同組合・三洋電機コンシューマエレクトロニクス(株)・グッドヒル(株)・千代三洋工業(株)・ダイヤモンド電機(株)・(株)大地企画・吉田建設(株)・(株)西村組が表彰を受けました。



表彰式の様子

インタビュー女と男

用瀬地区公民館長

田中 満智子さん



鳥取市内に61ある公民館で、唯一の女性館長(平成21年3月現在)である田中さんにお話を伺いました。

就任の依頼をされたときは、何故かは断ったが、周りの熱意に推され、引き受けたとのこと。

「受けたからには一生懸命がんばるしかない」と笑顔で語られる田中さん!!

初めに取り組んだこと

私(館長)を含め公民館の職員が全員女性であることを活かして、様々な新しい取り組みを試みました。

まずは、地域の方がより集いやすい公民館にするため、天気がいい日は入り口を開放して、誰でも気軽に入りやすい雰囲気づくりをしました。また、より親しく、身近に感じて貰えるよう、挨拶(特に、小学校の下校時には、表に出て)や声掛け、時には雑談をして、地域の方とのふれあいを大切にしました。

流し雛の時期は、地域の方のみならず、県内外から来られる観光客に喜んでもらえるよう、公民館を休憩場にして、七段飾りのお雛さんや地域の子もたちが作った雛祭りにちなんだ作品を飾ったりしました。(以後、毎年実施。)

とにかく、みんなに、親しまれ、喜ばれ、集ってもらえる公民館になるよう出来る限りの取り組みや努力をしました。

まちづくりについて

自分たちの地域は、自分たちで守り、創り、育む。

今、自治会を中心に、協働のまちづくり組織(防災、環境、福祉、教育等の部会制)をたち上げ、地域の交流を図り、助け合えるまちづくり計画が検討されて進んでいます。

その中で、公民館が地域の拠点となるよう頑張っていきたいです。

公民館行事について

体操教室、おりがみ教室、運動会、円通寺の人形浄瑠璃見学など様々な事に取り組んでいます。

節分の時期には、子どもからお年寄りまで集まって、節分の由来を話したり、ジャンボ巻き寿司をつくったりの交流もしています。(田中さんが、豆まきの鬼役になった事もあったとのこと!)

公民館行事を通して、異世代間のコミュニティ交流を大切にしたいと思っています。

公民館の運営上心がけていること

公民館の活動については、出来る限り職員の意見を尊重し、活かすようにしています。

「明るい職場」「明るい公民館」になるように努めています。

嬉しかったこと

「立ち寄りやすい」との、地域の方からの声を耳にしたとき、嬉しかったです。

また、新聞の切り抜きを持って来て、活動の参考にしよう色々提案くださる方もあり、そんな地域の方の熱意も嬉しく、ありがたいと思っています。



インタビューの様子

困ったこと

皆さんに支えられ、助けられ、困ったことはありませんでした。

敢えていえば、職員が女性ばかりなので、力仕事がつらいことくらいです。

これからの抱負

生まれて育ったこの地域を住民のみなさんと一緒により安心で安全な町になるよう努力してゆき、今まで支え、助けてくださった、皆さんの気持ちに伝えるようがんばります。

この仕事が出来て良かったと思っています。



流し雛の時期の公民館(左右・ロビー/中央・入口看板)

普段の公民館ロビー(バルーンアートや花できれいに飾っており、来られた方をもてなす雰囲気が伝わりました。)



～こどもへのあらゆる暴力を防止するプログラム～

今回は、「とっとりCAP」取材しました。

鳥取市内でのワークショップ（参加型の学習）の後、CAPの皆さんに取材しました。

Q CAPって？

A CAPとは「Child Assault Prevention」= 子どもへの暴力防止 という意味があり、子どもたちが、いじめ、虐待、痴漢、誘拐など様々な暴力から自分を守るために出来ることを伝えるための教育プログラムです。

Q いつから活動しておられますか？

A このプログラムはアメリカ生まれです。日本では13年前から取り組まれ、他県ではそのころからCAPグループができて活動していましたが、鳥取にはありませんでした。2006年6月に開催された、CAPスペシャリスト養成講座で出会った鳥取のメンバーがこのままでは鳥取にCAPグループができないと話し合い、8月にはそれまで研修を受けておられた方にも声をかけ活動をはじめました。これで、全国どの都道府県にもCAPグループができたことになりました。

Q どんな内容でしょう

A このワークショップは就学前の子ども、小学生、中高生と発達段階にあわせてプログラムがあります。

そして、どんなプログラムなのか大人の方にCAPのプログラムを紹介する大人ワークというものもあります。

このプログラムはだれにも「安心」「自信」「自由」の大切な権利があり、様々な暴力によってこの権利が奪われそうになったときは「NO」イヤって言うてもいいよ、「GO」逃げてもいいんだよ「TELL」必ずだれか信頼できる人に相談しよう と伝えています。役割劇（ロールプレイ）や人形劇 などを見てどのようにしたらいいか一緒に考え、話し合います。子どもたちにも劇に参加してもらう場面もあります。

Q 本日は夜、3人がこられていますが活動は大変ではないですか？

A 2006年度には9回だったワークショップ開催数も07年度は36回、08年度は33回のワークショップを行いました。このワークは3人のメンバーがそろわないとできないので、県下に散らばっているメンバーのスケジュール調整をして開催させていただいています。調整がつかず開催依頼をお受けできなかったこともありますので、早めにご相談ください。仲間がいて、それぞれの得意分野を生かしながらグループを運営し、支え合っていることで続けられていると思います。



ロールプレイの様子

取材を終えて……

仕事、家庭、活動をやりくりしながらなので、目に見えないご苦労もあるのではと思いつながら、話をお聞きしました。

「自分の子どもにこのプログラムを体験させてあげたかった」「私自身、いじめにあって悩んでいたこともあったので、CAPをもっと早く知りたかった」「相手に何を言われても、何も言えなかった」「相談は迷惑をかけると思っていた」などCAPを知って感じたことは色々だけど、今は鳥取県下のすべての子どもたちに届けたいと笑顔で話された。

人間がもっている大切な権利「安心」「自信」「自由」の考え方は普遍的で子どもの心を救うばかりではなく、ワークショップに参加した大人の心をも救うものだと感じた。

編集後記

新しい出会いが楽しみな春がやってきました。にっこり(^.^)、まあいい言葉で素敵な出会いがありますように… (有本)

「とっとりCAP」の取材は、人として、親として自分を省みる機会となった。「自分のことを好きでいる」「自分を大切に思う気持ち」は、大人でもまして子どもならなおさら大事なのだと思った。(岸本)

女性館長さんをインタビューしてみて、いろんな女性の役割があるけど、館長の立場として大変な役職。でも情熱、意欲に燃えて頑張られる姿に感銘した。(出村)

“株式会社 大地企画”の取材で、企業における子育てしやすい環境づくりが進んでいることを実感しました。この輪がますます広がっていくことを期待しています。(並川)

